



彩の国さいたま

<管内関係機関・認定農業者等向け情報誌>

加須農林振興センターだより

発行 埼玉県加須農林振興センター 加須市不動岡 564-1
TEL : 0480-62-4771 FAX : 0480-62-1499
e-mail : g624771@pref.saitama.lg.jp
http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0907/



埼玉県のマスコット
「コパトン」、「さいたまっち」

令和5年度下半期の加須農林振興センター管内においては、農業者や法人及び団体の表彰・受賞が相次ぎました。

しかも、ベテランから若手まで、主穀作・野菜・果樹・経営体の育成・農地の保全など多岐に渡った内容であり、北埼玉農業の底力を評価していただきました。

そこで今回、特集で受賞・表彰の皆様を紹介いたします。

緑白綬有功章（新井健一氏、順子氏）

緑白綬有功章は、公益財団法人 大日本農会が実施する農事功績者表彰事業の中で、農業生産において顕著な功績をあげ、地域農業の発展に貢献するとともに、自身の農業経営も大きく発展させた者を表彰するもので、このたび、行田市にある株式会社あらい農産の新井健一様、順子様を受章されました。

水稲作で、学校給食向け等の出荷先確保と稲わら販売により安定した経営基盤を構築するとともに、稲わらの有効活用により地域内資源循環と畜産振興を推進、指導農業士として担い手確保・育成に尽力し、地域農業に貢献されたことが高く評価されました。

ほかにも、北埼玉スマート農業研究会を立ち上げスマート農業技術に対する理解促進を進めるとともに、会員7名と協力してRTK基地局を設置し、農業初心者でもプロ並みに農業機械を扱うことを可能とする環境を整備するなど、今後の地域農業発展の礎を築いたことも評価されました。



【受章報告】

【お問合せ】農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911

令和5年度全国優良経営体表彰（早川農場）

「全国優良経営体表彰」は、意欲と能力のある農業者の一層の経営発展を図るため、農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に優れた功績をあげた農業者を農林水産省及び全国担い手育成総合支援協会が表彰します。この度、加須市の有限会社早川農場（代表：早川良史氏）が担い手づくり部門で農林水産大臣賞を受賞され、令和6年2月28日「第25回全国農業担い手サミット」全体会において表彰式が行われます。

当法人は加須市の農業を活性化し、将来を担う若手を育成するため、農家・非農家を問わず従業員や研修生として積極的に受け入れ、独立就農に向けた「人づくり」を実践しています。

また、独立就農時の初期投資負担軽減のため、当法人が所有する機械や施設を貸し出すほか、繁忙期に従業員を派遣するなど独立した新規就農者の経営が安定するまで全面的にサポートを行っています。

このほか、加須市内の若手農業者による青年農業者組織の設立を主導し、初代会長として孤立しがちな若手新規就農者を受け入れる環境を整え、地域農業の「仲間づくり」に取り組んでいることなどが高く評価されました。



【早川氏を囲む門下生たち】

【お問合せ】農業支援部 新規就農・法人化担当 TEL0480-61-3911

第9回彩玉なし共進会 県知事賞受賞（小川達男氏）

埼玉県果実連合会主催の第9回彩玉なし共進会で加須市騎西梨撰果所利用組合の小川達男さんが県知事賞を受賞しました。昨年の第8回に続き、2連覇となります！おめでとうございます。

この共進会は、県のブランド梨「彩玉」の栽培面積の維持拡大や生産技術の向上、品質向上対策を図り、県下の果樹経営の更なる発展などを目的に開催されています。

審査は8月に浦和で行われ、集まった46点の中から11点の受賞者を選抜しました。審査委員が中心となって実際に手に取り、品質・形状・色調・荷造り等の項目で実施されました。

また、審査会の後に、これまで新型コロナウイルスの関係で自粛していた「彩玉」のPR活動が、4年ぶりに浦和駅にて行われました。約1時間半に渡り、訪れた消費者に試食も含めたPRを実施しました。

表彰式は、11月に群馬県渋川市伊香保町で行われ、入賞者に表彰状が手渡されました。



【賞状を手にする小川さん】



【県知事賞を受賞した出品梨】

【お問合せ】農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911

第2回全国梨選手権最高金賞受賞（関口農園）

加須市の関口農園（株）の「朝もぎ完熟梨（豊水）」が、日本野菜ソムリエ協会主催の第2回全国梨選手権で最高金賞を受賞しました。

全国各地の産地から28品の出品があり、40人の評価員が審査して一番おいしい梨として選ばれました。

「朝もぎ完熟梨（豊水）」は評価員から、「果汁がいっぱいで、まるでジュースを含んだようでした。大きな果実で上下で甘さが違って、そこもおもしろく味わいました。」などと評価されました。



【関口さんご家族。右から2番目が代表の智之さん。】

関口農園では果実の熟期にこだわり、毎朝、樹上にある果実の適熟を見極め収穫し、丁寧な選別を重ねて販売しております。庭先直売だからこそ農家さんが選んだ「完熟」の梨が食べられるのが魅力です。販売は、庭先販売のほかオンラインショップでの販売もしております。

梨の時期は8月初旬頃からになりますが、時期になりましたらおいしい梨を是非お楽しみください。

【お問合せ】農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911

令和5年度埼玉農業大賞（はせがわ農園）

埼玉農業大賞は、革新的な農業経営に取り組む方や地域農業の振興に貢献された方々の功績を称え、広く発信する事で埼玉農業のさらなる発展を目指すものです。

このたび、はせがわ農園（代表取締役：長谷川浩氏 行田市）が経営体部門で大賞を受賞され、令和5年11月25日に熊谷スポーツ文化公園（彩の国食と農林業ドリームフェスタ）で表彰式が行われました。

はせがわ農園は、業務用主食用米、米粉用米、もち性二条大麦、なし等を組み合わせ、安定した農業経営に

取り組んでこられました。また、社会情勢や顧客ニーズを捉え、新たな品目、新たな栽培技術、新たな販売方法に継続してチャレンジし、経営を発展させてきました。もち性二条大麦の取組では、国や県と連携した品種特性の把握、産地品種銘柄への登録、県学校給食会と連携した需要の創出などを進め、地域での作付面積拡大に大きく貢献されています。さらに、なしは、全個糖度測定を行い、基準以下のものは販売しない徹底した商品管理により、顧客満足度を高めています。



【表彰式で大野知事とともに】

今後も、多角的な事業展開により経営発展するとともに、更なる地域農業への貢献が期待されます。

【お問合せ】農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911

クリスマスいちご選手権最高金賞受賞（北川辺いちご部）

加須市北川辺いちご部のいちご「べにたま」が、令和5年12月19日に開催された日本野菜ソムリエ協会主催のクリスマスいちご選手権で最高金賞を受賞しました。全国各産地から「クリスマスシーズン」に美味しい34品のいちごがエントリーされ、評価員である野菜ソムリエやバイヤーが評価し、一番おいしいいちごとして北川辺いちご部の「べにたま」が選ばれました。

県内生産者の最高金賞受賞は、令和5年2月に行われた第1回全国いちご選手権に続き2連続受賞となりました。

埼玉県は令和5年3月に、全国初の「プレミアムいちご県」として日本野菜ソムリエ協会から認定されており、埼玉は最もおいしいいちごを生産している県として全国から注目されています！「べにたま」は、埼玉県内の量販店で販売されていますので、是非お手にとって、日本一のいちごをご賞味ください。

※現在「べにたま」は直売所や庭先での販売はされておりません

【お問合せ】 農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911



【賞状を手にする北川辺いちご部大谷部長と同部会員】

羽生市の地域活動団体『農援隊』が表彰されました！

～多面的機能支払交付金の優良事例～

多面的機能支払交付金制度は、地域の農地や農業用施設を保全・管理する地域活動団体（以下、活動組織）に対して、国・県・市町村が支援する制度です。埼玉県多面的機能支援推進会議では毎年度、県内で特に優れた活動を行っている活動組織を「優良事例」として表彰しています。

加須農林振興センター管内では『農援隊』（羽生市新郷）の取り組みが今年度の優良事例に選ばれ、令和5年11月9日、鴻巣市文化センター「クレアこうのす」で開催された埼玉県多面的機能支援推進会議研修会（さいたま・加須・春日部地域）にて表彰状が授与されました。

『農援隊』は、管内では珍しい活動組織の直営施工による水路の補修・更新や、植栽活動などを実施しています。

これらの活動には地域の非農家や若手農家も参加しており、ベテラン農家の知識・技術が次世代に継承されているほか、地域コミュニティの活性に繋がっています。



▲表彰式



▲直営工事（水路の底打ち）

【お問合せ】 農村整備部 整備支援・管理担当 TEL0480-62-4578

排水改良した水田で野菜を栽培しています！

～高収益農業を実現するほ場整備実証事業における取り組み～

近年、水田農業の高収益化を図るため、全国的に様々な取組が行われています。こうした動きも踏まえ、県内有数の穀倉地帯を管轄している加須農林振興センターでは、令和3～5年度の3カ年で「高収益の農業を実現するほ場整備実証事業」を実施しています。

加須市・羽生市の水田約3haに実証ほ場を設け、令和3年度は暗渠排水等の排水改良工事を実施し、令和4年度からは地域の農業法人に野菜を栽培していただき、水田での野菜生産の可能性を検証しているところです。



◀ 加須市大越地内の実証ほ場（約1ha）

昨年度からブロッコリーを栽培中です。今年度はブロッコリー作付け前に子実用とうもろこしを栽培し、収穫後の根や茎をすき込んで土壌改良を行いました。その効果もあり、昨年度より生育が良好です。



◀ 羽生市名地内の実証ほ場（約2ha）

令和4年秋から令和5年初夏までは玉ねぎを栽培、連作障害を防ぐため、令和5年秋からは白菜を栽培中です。生育は天候の影響が大きいようですが、排水改良により収穫等の作業性が向上しています。

【お問合せ】農村整備部整備支援・管理担当 Tel.0480-62-4578

目指すべく将来の農地利用の姿「地域計画」

～10年後の農地のあり方を考えましょう～

これまで、「人・農地プラン」の作成をして地域農業の将来について考えてきました。

しかし、高齢化や人口減少が更に進み、農業者の減少や耕作放棄地が拡大して、担い手だけでは地域の農地が適切に利用されなくなることが心配されてきました。

そこで国では、農地の集約化等に向けた取組を加速化するために農業経営基盤強化促進法にある「人・農地プラン」を「地域計画」に変更し、この計画を各市において令和7年3月までに策定することになりました。

地域計画の策定にあたっては、農地の出し手・受け手の意向調査を実施し、10年後の農地を誰が利用しどのように農地をまとめていくのか、将来の農地のあり方について地域での話し合いを経て、10年後の農地利用の姿を明確化した「目標地図」を作成します。

一部令和5年度末に策定予定の地域もありますが、農業者・農地所有者・各農業団体の皆様には、アンケート調査や話し合いの場への出席等につきまして、御協力をお願いいたします。



10年後の農地利用を記した「目標地図」

【お問合せ】 管理部 地域支援担当 Tel.0480-61-3404